

1 PLAN(目的・概要)

政策名	国際競争力及び産業競争力の強化と港湾物流の環境変化に対応した港づくり	30年度事業・施策評価結果		責任者	建設部 事業推進課長	
施策名	国際産業戦略港湾の実現に向けた取組の強化	成果	コスト			
事務事業名	飛島ふ頭地区ふ頭再編改良事業			連絡先 連携課	052-654-7921	
目的	対象(誰・何を)	大型船によるコンテナ輸送機能			事業 期間	平成28年度～令和5 年度
	意図(どうい う状態にしたいか)	飛島ふ頭東側において船舶大型化や老朽化への対策を進め、コンテナターミナルの取り扱い機能強化を図ります。				
概要	整備場所: 飛島ふ頭 内容・規模: 東南アジア向けコンテナ貨物の増加やコンテナ船の大型化に対応するため、既存施設の老朽化対策と併せた水深15mへの増深改良 全体事業費: 325億円 事業手法: 直轄事業、貸付金事業			根拠 法令等		
令和元年度の実施予定	国が飛島ふ頭東側コンテナターミナルR1岸壁について、水深15m化、耐震化の改良工事を実施し、その内容について協議を行います。			実施義務	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
				関連 シート		

2 DO(実施)

令和元年度に実施した内容・結果	国と協議を行い、飛島ふ頭東側コンテナターミナルR1岸壁の水深15m化、耐震化の改良工事を国が実施しました。					
コスト	単位	29年度	30年度	元年度	合計	備考(費用の増減理由等) 平成28年度以降: 3,551,000千円 事業費の()は、国費負担分を含んだ金額です。
事業費	千円	(1,452,000) 484,000	(2,692,600) 897,533	(6,483,400) 2,214,467	(10,548,000) 3,516,000	
人件費	千円	2,941	2,950	10,550	16,441	
合計	千円	486,941	900,483	2,225,017	3,612,441	

3 CHECK(検証)

成果目標名		29年度	30年度	元年度	最終目標	5	成果目標の説明・目標値の考え方	外部要因
飛島ふ頭地区岸壁(水深15m)(改良)整備進捗状況(全6工程) (進行管理型)	目標	1	3	3	6	以下の項目のうち、完了した工程数を合計します。 【①事業採択、②調査設計、③工事着手、④R1岸壁改良、⑤R2岸壁改良、⑥泊地整備】		
	実績	2	3	3				
事業進捗状況(元年度)		○調 順調・やや遅れ・遅れ						
目標の達成度に対する評価(外部要因等を踏まえた)	目標							
	実績							
事業進捗状況(元年度)								
目標の達成度に対する評価(外部要因等を踏まえた)		予定通り順調に事業が進捗しています。						
必要性・有効性・効率性の検証		評価	評価に関する説明					
必要性	本組が関与し、どうしてもやらなければならない事業か?	○	コンテナ船は大型化が進んでおり、大型船に対応した港湾施設の整備の必要性は高いと考えております。					
	事業規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境にあっているか?	○						
有効性	事務事業の目的は、施策達成に貢献するか?	○	飛島ふ頭東側におけるコンテナターミナルの機能強化は、上位施策の「国際産業戦略港湾の実現に向けた取組の強化」に資すると考えております。					
	期待どおりの成果が得られているか?	○	本事業の進捗状況としては、順調に進んでおります。					
効率性	最小のコストとなっているか?	○	コストが最小となるよう精査して事業を進めています。					

4 ACTION(取組)

施策評価結果	2年度以降の方向性		判断理由
	成果	コスト	
継続	維持	維持	船舶の大型化や施設の老朽化に対応するため、着実に事業を進めていく必要があるため。
	取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。		
課題			2年度以降の取組
船舶の大型化や施設の老朽化に対応するため、コンテナターミナルの荷役作業に大きな支障が出ないよう、事業を進めていく必要があります。			関係者調整を行いながら、事業を進めていきます。